

目標の設定にかかわって

- (1) 中間自己評価結果を活用して、選択と集中を図る見直し
 成果の上がっている事項やよい点について、取組の定着により日常的な取組として重点から外す

【短期経営目標】

読書に親しむ子どもを育てる。 削除
 定期的な情報提供を行う。 削除

あいさつ・清掃・履き物揃え・後片づけ・言葉遣い・緑化など心の和む環境づくりに努める。
 言語環境を整える。

【具体的方策】

異学年交流の場としての全校集会や学年集会などの充実を図る。 削除
 学校内外を問わず、毎日のあいさつを大切にする。 削除
 清掃活動やあとかたづけを徹底し、環境美化に努める。 削除
 「朝の読書」(木曜日8:30~8:40)を行う。 削除
 学校だよりや学年だより、および教育活動を掲載した学年のHPを充実する。 削除
 全校長縄跳び大会を実施する。 削除

校内研修の充実を図る。～表現力の育成を目指して～
 話す力・聞く力、伝え合う力を高める
 朝のドリル学習(8:30~8:40)や個別指導による基礎学力の補充を行う。
 朝のドリル学習に取り組む
 食事・睡眠・排便・家庭学習について、生活リズム週間を設け習慣化を図る。
 朝食・睡眠・家庭学習について、毎月1回生活リズム週間を設け習慣化を図る。

指標にかかわって

- (1) 努力指標(教師の取組と明記)と成果指標(めざす児童の姿と明記)とのすみわけ
 (2) 目標・方策と関連させるための指標の中身の見直し

努力指標には、質的なもの(意識)と量的なもの(時間・労力・回数)がある
 努力指標は、成果指標へとたどりつく道しるべである
 成果指標は、現実の児童の姿をもとにステップアップ方式でレベル設定する
 成果指標は、複数の要素を含むものでなく単一要素ごとに1つずつ設定する
 成果指標の基準は、低・中・高学年で異なることもある

努力指標(教師の取組)	成果指標(めざす児童の姿)
全体研修3回・学年研修20回以上実施 話し方の評価規準を意識した指導 (低)最後まではっきりと話す (中)結論を言い、その理由を話す (高)結論を言い、その後、その理由や説明を話す	話したり書いたりすることに抵抗がうすらいだ～ ことばのスキルが身に付いてきたと感じる児童 話し方の評価規準をクリアできた児童 4(低・中)85%以上(高)75%以上 3(低・中)75%以上(高)70%以上 2(低・中)65%以上(高)60%以上 1(低・中)65%未満(高)60%未満
聞き方の評価規準を意識した指導 (低)最後まで、うなずきながら聞き取る (中)話の中心を聞き取り、自分の感想をもつ (高)自分の考えと比べながら聞き、感想や意見をもち	聞き方の評価規準をクリアできた児童 4(低・中)90%以上(高)80%以上 3(低・中)80%以上(高)70%以上 2(低・中)70%以上(高)60%以上 1(低・中)70%未満(高)60%未満

努力指標（教師の取組）	成果指標（めざす児童の姿）
<p>理解を促す教材・教具を使った授業，1週間で5時間以上実施</p> <p>授業の基本パターンを意識した授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入で，めあてをはっきりさせる ・まとめで，本時でわかったことを確認し合う手だてを講じる 	<p>勉強がよくできるようになったと感じる児童～</p> <p>授業への満足度</p> <p>4 90%以上</p> <p>3 80%以上</p> <p>2 70%以上</p> <p>1 70%未満</p>
<p>朝のドリル学習等週3回以上実施</p> <p>縦のつながりを考えた各学年の達成規準を意識した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年 ・2年 ・3年 ・4年 ・5年 ・6年 	<p>計算や漢字が得意になったと感じる児童～</p> <p>学年の達成規準（計算）をクリアできた児童</p> <p>4（低・中）85%以上（高）80%以上</p> <p>3（低・中）80%以上（高）75%以上</p> <p>2（低・中）75%以上（高）70%以上</p> <p>1（低・中）75%未満（高）70%未満</p> <p>学年の達成規準（漢字）をクリアできた児童</p> <p>4（低・中）90%以上（高）85%以上</p> <p>3（低・中）80%以上（高）75%以上</p> <p>2（低・中）75%以上（高）70%以上</p> <p>1（低・中）75%未満（高）70%未満</p>
<p>グリーンカード等を積極的に活用し，児童を認め励ます言葉がけをする</p>	<p>先生や友だちが認め励ましてくれると感じる児童</p> <p>4 95%以上</p> <p>3 90%以上</p> <p>2 85%以上</p> <p>1 85%未満</p>
<p>手本となる正しい言葉遣いを意識した指導</p>	<p>言葉遣いに気を配るようになったと感じる児童</p> <p>丁寧な言葉遣いで話すことができる児童</p> <p>4 90%以上</p> <p>3 85%以上</p> <p>2 80%以上</p> <p>1 80%未満</p>
<p>各学年で体験活動を計画実施</p> <p>4 年間4回以上</p> <p>3 年間3回以上</p> <p>2 年間2回以上</p> <p>1 年間1回以上</p>	<p>自然や社会とのつながりが増したと感じる児童</p> <p>自然や社会との関わりについて，気付きを自分でまとめることができる児童</p> <p>4 95%以上</p> <p>3 90%以上</p> <p>2 85%以上</p> <p>1 85%未満</p>
<p>生活リズム週間を計画実施</p> <p>睡眠8時間以上</p> <p>朝食摂取100%</p> <p>家庭学習（10分×学年）の啓発</p>	<p>生活リズムが身に付いてきたと感じる児童</p> <p>必要な睡眠がとれている児童</p> <p>4（低）90%以上（高）80%以上</p> <p>3（低）85%以上（高）75%以上</p> <p>2（低）80%以上（高）70%以上</p> <p>1（低）80%未満（高）70%未満</p> <p>毎日朝食がとれている児童</p> <p>4 100%</p> <p>3 95%以上</p> <p>2 90%以上</p> <p>1 90%未満</p>

	家庭学習が定着している児童
4	85%以上
3	75%以上
2	65%以上
1	65%未満

達成状況の見きわめにかかわって

(1) 評価計画の見直し

自己評価の客観性を高めるための多面的データの収集を工夫する

- ・経営計画に沿った児童，保護者，教職員の三者共通評価項目によるアンケート実施（年2回）
- ・アンケートの肯定的回答（A，Bの合計値）を，成果指標の基準に照らし合わせて4段階評定
- ・アンケートによる数値は，あくまで教職員による自己評価を肉づける資料

【ある時点に絞ったタイムリーな特設アンケートの実施】

授業参観日を利用する場合

児童対象（記名）；授業への満足度および理解度を測る手がかり

保護者対象（記名）；学校の取組に対する認知度および満足度を測る手がかり

協力者委員（記名）；学校の取組に対する認知度および満足度を測る手がかり

として生かせる

項目（児童用）は？

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

項目（保護者・地域用）は？

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5

自由記述欄の扱いは？

【アンケート以外のデータ収集】

- ・日常的な地域や保護者からの声